

市民俳歌柳壇

歌壇

安野登美子 選

あやとりの橋くぐるごと愉しかり
遠回りして渡る鬼怒橋

◎選評 あやとりは、腕に掛けた糸を向き合う二人が形を作り、形を変えて取り合う江戸時代からの女の子の遊びである。橋を作った糸を指先は滑るように壊さぬように取る。真剣な目と楽しい遊びがよみがえる。あやとりの橋の郷愁は遠回りしてまでも鬼怒橋を渡る。ここに、二つの橋を心的につなぎ留めた作者の感動の在りかを見た一首であった。

西の宮2丁目 篠崎 一郎

ゆらゆらと歩くがごとく湯気立ちて
畑は息吹く梅雨入りの朝

七変化梅雨を彩る紫陽花の
花まり楽し老いを慰む

◎選評 清原台5丁目 北市 邦子

長岡町 赤羽 スミ

俳壇

星田一草 選

夏祭り法被りりしく父の背
潮風や棚田一閃夏燕

◎選評 花は白い小さな花が球状に集まって咲く。清楚で親しみやすい花である。窓辺でのいつもの会話であろうか。うなずきながら静かにものを聞く姿が清らかで涼しげな花に投影されている。「花の花」のあっせんが適切である。

立伏町 大樹龍五郎

万緑や風さはさはと山揺する
郭公やだしぬけに来る宅急便

◎選評 花園町 布施美耶子

中今泉5丁目 丸田 守

柳壇

荒井宗明 選

父の日の父残業をして帰る

◎選評 もう死語かもしれないが「昔かたぎ」という言葉があった。昔風で、頑固・律義をモットーとし、仕事に命を懸けるといった信念の人である。このお父さんもそれに近い人であろうか。だから仕事第一で、私事は二の次三の次なのである。この自由な時代に貴重なお父さんである。大事にしていたきたい。

西大寛2丁目 柏村久美子

計算のない親切が身にしみる
出世払い孫の出世が遅すぎる

◎選評 平松本町 鶴牧美佐子

清原台4丁目 水上 義明

うつのみやの 歴史を紐解く物語

第4回 二度の戦災をたくましく生き抜いたまち うつのみや

■戊辰戦争勃発 慶応4年(1868年)1月、新政府軍と旧幕府軍による戦いが始まり、3月には西郷隆盛と勝海舟による会談が行われ、江戸城の無血開城が決定します。

その後、江戸城は開城したものの、旧幕府側の一部が徳川家の聖地である日光山を目指し北上します。

■宇都宮での戦い 同年4月19日、会津藩士・秋月登之助、新撰組・土方歳三らに率いられた旧幕府軍は、防備の薄い宇都宮城の南東部から攻め込んできました。

これに対し、新政府側に付いた宇都宮藩は防戦しますが、旧幕府軍に押され、退城を決意します。

その際、二の丸館に火を放ち、旧幕府側の放った火と相まって、南東からの強い風を受け、宇都宮城下のほとんどが焼失してしまいました。

4日後の4月23日、宇都宮城を占拠した旧幕府軍

に対し、薩摩・大垣藩を主力とする新政府軍が六道辻側から攻め入り、松が峰門付近で白兵戦となります。

この時、旧幕府軍参謀の土方歳三が足首に銃撃を受け負傷しました。夕刻には、新政府軍の総攻撃により、旧幕府軍は一斉に退却し日光に向かいました。

その後、白虎隊で有名な会津戦争、翌年5月の箱館戦争を経て戊辰戦争は終結します。

■県都宇都宮の誕生 この戦争で焼け野原となった宇都宮の街は、その後の文明開化の波を受け、近代的な街に生まれ変わり、明治17年(1884年)の栃木から宇都宮への県庁移転により、名実ともに県の政治・経済の中心となります。

☎文化課(632)2764



▲六道辻の戊辰之役戦士墓

ページ番号を市HPのトップページで入力してください。関連ページが見られるよ。

◎俳歌柳壇 応募方法 1人に付き俳句3句、短歌3首、川柳3句以内。対象は市内在住の人で、未発表作品に限ります。はがきに、作品(漢字にはふりがなも付けて)・住所・氏名(ふりがな)・応募する壇名を書き、毎月20日(消印有効)までに、〒320-8540市役所広報広聴課へ。俳句・短歌・川柳の併記は不可。市内に在住か通学している小・中学生からも応募をお待ちしています。☎広報広聴課(632)2028